

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	36	ツイートしてもらえらるまちに ～裾野市の誇りを育てる大作戦！～	裾野市
アイデア名 (公開)	真剣十代学び場		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	真剣十代学び場		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	高橋つぐみ	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【課題】裾野市で発信できる情報が少ない。

- 仮説：学生が集まれる場所が少ないのでは。学生が情報交換し、発信できる場がないのでは。
- 10代の学び場を作る。

【誰が実施するか】学生、地域の商店街、PTA、学校、市役所

【誰に対するサービスか】学生

【概要】

- ・公民館や、空き店舗を勉強場所として提供する。
- ・使った人はツイートで拡散。
- ・友達同士の口コミ、リツイートでさらに拡散。

【価値】

- ・地元の人とは他校の人との交流と学力の向上
- ・運営を通じての学生の社会勉強、人との交渉などの学習になる
- ・子育て世代に教育環境の整った裾野をアピールできる
- ・将来、戻ってきたい裾野となる

【詳細】

- 図書館では、友達同士で話しながら勉強できないが、学生が勉強できる場ができる。
- ツイッターで募集をかけることもできる。
- 学び場にのびりを立てることで分かりやすくする（目に入る告知）。
- 土地の人と話す機会が増え、お店の人からの地元のイベントの告知や、地元の名称・イベントのツイートが増える。年代間の縦のつながりができ、そこから横展開される。
- 利用した学生たちが、大きくなったときに、地元では近所づきあい、共生している文化があることを知っているため、シビックプライドの向上、さらには地元へ戻ってくることも繋がる。
- 周辺の町に、裾野市では住民が学生たちの勉強の場を提供していることが情報発信され移住者の増強にもつなげる。
- 勉強の場なので、大学生、高校生、中学生の感の連携もできる。
- ボランティアがベースとなるが、教員OBなどシルバー人材の力を使うことも想定。
- どのぐらい利用しているか、わかるようにすることで、効果は示したい。

【アイデアシート】

<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/30896507066/>

【リーニキャンバス】

<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/31234670146/>

【シナリオ】

<https://www.youtube.com/watch?v=8N3Pu2V6f84&feature=youtu.be>

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

【調査項目】

確認項目	出典	数値/効果
塾に行く日数	裾野西中学生にヒアリング	塾は平均週三日
高校生の人数	裾野市人口統計（16歳～18歳） 平成28年12月	1478人
裾野高校と不二聖心の定員数	公立高校入試 募集計画・志願倍率	裾野高校：約600名 不二聖心：約240名
空き店舗数	裾野市重点施策基本方針	平成24年

【効果の想定】

① 【初期投資】

- ・フリーWifi 5,000-6,000円
- ・公共施設を想定 0円
- ・人件費 ボランティアを想定 0円
- ・広告費 裾野市のFB、Susono Times 0円

継続的費用

- ・電気代 一ヶ月 2,340円
- ・水道代 一ヶ月 522円
- ・広告費 デザイン印刷 100,000円

費用合計 1軒当たり約年間 133,144円

② 【想定効果】

- ・地域と学生の交流による、情報発信、地域育成
→ 広告料と同程度の、学生向けに広告価値があることを想定。
- ・学生主体に運営することで、社会勉強の知見を得る
→ 学校ごとに、生徒会やボランティアで運営することで、企業経験を若いうちから身に着ける。
企業塾セミナー 10万円 * 5人 = 50万円の効果
- ・教育環境の向上による、移住者の増加
→ 1家族が裾野市に移住すると、390万円の経済効果ある（裾野市への聞き込み）

③ 【公共投資部分】

- ・市民連携パートナー制度の利用 年間 200,000円

【結果】

費用① < 想定効果② + 公共投資部分③

という形が見えてくる。単純に黒字を出す事業ではないが、社会的な効果を生み出すアイデアである。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【期間】

仕組みの拡大までに5年、次に繋がるのは今後ずっと効果あり

【概略】

- ・まず、裾野市の西地区の高校私鉄で試験実施開始する。
 - 市民協働室と連携する。（室長には、既にこの企画を話済み）
- ・ポスターや口コミによる告知と、商店街・学校・PTAを巻き込み協力をお願いする。
- ・1軒目の成果を持って、西地区の空き店舗利用拡大と、他地区への展開を考える。
 - 市民協働室の市民協働パートナー制の利用や、企画室からの情報による各地区ごとに利用できる施設があるので地域への説明をする。
- ・裾野市のベンチャー文化、シビックプライドの熟成
 - ・各地区の生徒が主体となり、この企画の運用を通じた企業・社会勉強
 - ・市民や、OB、OGが学生を応援できる制度（ふるさと納税の一部を社会ベンチャー資金とするなど）
- ・そして、子供たちが大人になったとき、また裾野に戻ってくる。
- ・歳をとったときに、今度はボランティア側となる。

【全体像】

<https://www.flickr.com/photos/149130683@N02/31874692406/in/dateposted-public/>

テストエリアで試験実施（商店街、PTA、学校への協力による拡大し利用アピール） →
範囲拡大（空き店舗、他地区）資金拡充 →
学生が大きくなったときに地元に戻る

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

- ・このアイデアは、地元で学生のときから、大人、年寄りになるまですべて関わられることです。一生をかけて裾野市のシビックプライドをみんなで作れる点です。
 - ・学生時期：ボランティアが手伝ってくれる勉強場を使う
勉強場の運営は学生が行い、自ら企業・社会勉強の場とすること
 - ・大人の時期：教育をするなら裾野市だね。と、大人になったら帰ってきたくなる街となること。
地域に戻ってこれないOB、OGは、ふるさと納税等で、直接勉強場を運営することをフォロー。
 - ・シルバーの時期：ボランティア側に回り、勉強場で子供たちを見守る。
- ・16時～18時を想定しているため、介護施設がちょうどこの時間空いているので協力ができるのか法律の確認が必要。

【アピールポイント】

この企画を裾野市長に、学生がプレゼンしたところ、市役所の地下の多目的ホールを使えるようにしなさいとすぐに指示がでた。情報公開を進めてもらうことを、市民側、市役所側で確認している。

アイデアソンだけでは、やはり不足で、ビジネスプラン、今後の進め方まで含めたプレゼンを、市で協力して欲しい方たちに直接プレゼンすることが必要である。